

百濟出土文字資料の用字（要旨）

李 鎔 賢

最近三年間百濟地域で羅州伏岩里木簡、益山弥勒寺跡舍利記などのように重要な新資料が次々と出土し、それに対する基礎的な研究が行われている。新しい資料の登場はそれら自体の研究のみならず、すでに知られていた資料を再認識する契機にもなり、百濟文字資料などを総体的に理解することに一歩前進できる。資料をもって百濟の用字を中

心に百濟文字言語の姿を窺える。水田、白田のように農耕地関連用字、農耕地の面積を示すような形のような百濟独特の用字、納入と関連のある「上」「未」、また、人間を年齢別に区分した「丁」「中口」「小口」のような用語がみえる。これら用字を通じて東アジアのなかで百濟文字言語を理解することができる。

〔二〇一〇年上代文学会秋季大会 シンポジウム要旨〕より転載）